

職場に合った安全靴・作業靴を選ぶためのアンケート

日本安全靴工業会

① 職場の作業内容アンケート

作業には、様々な業態がありますが、足部災害に関係する質問項目で実際の作業内容をアンケート形式にしたがって回答することで、職場に合った靴の凡その性能がわかります。まずは次のアンケートに回答をしてみてください。

表－２ 職場の作業内容アンケート

No.	アンケート項目		回答（該当箇所を○で囲む）
1	つま先防護 性能関連	2kg 程度の軽量物の運搬がありますか (運搬時の高さ 70cm を想定)	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
2		10kg 程度の重量物の運搬がありますか (運搬時の高さ 70cm を想定)	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
3		20kg を超える重量物の運搬がありますか (運搬時の高さ 70cm を想定)	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
4	甲被及び靴 底の材質関 連	作業で水を使用することがあります	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
5		作業で油や薬剤を使用することがあります	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
6	踏抜き性能 関連	床面に釘等の鋭利な突起物がありますか	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
7	踵の衝撃吸 収性能関連	立作業や歩行作業が毎日 2 時間以上ありますか	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
8	足甲の防護 性能関連	つま先部だけでなく足の甲部にも重量物（想定 10kg）を落とす危険がありますか	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
9	耐滑性能関 連	作業場で転倒、又は転倒しそうになったことがありますか	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
10	感電防止性 能関連	作業場で高電圧発生装置（想定 AC300V 以上）を取扱うことがありますか	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
11	耐高温熱伝 導性能関連	作業場の床面温度が 100℃を超えることがありますか	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
12	耐低温熱伝 導性関連	作業場の床面温度が -20℃を下回ることがあります	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
13	耐高熱接触 性関連	作業場に表面温度が 150℃を超えるような機械、装置がありますか	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
14	耐切削性関 連	作業場に鋭利な物体がありますか。	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない
15	静電気帯電 防止性関連	作業場には静電気帯電があると支障を起こす半導体、電子機器がありますか。 また、防爆が必要な作業はありますか。	普通にある ・ 少しある ほとんどない ・ まったくない

② アンケート結果の判定について

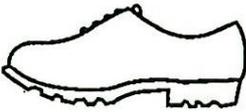
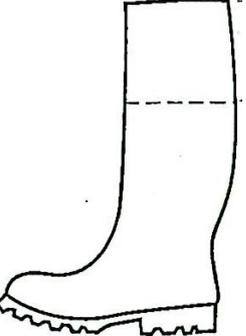
区分	No.	回答	選択判定
つま先の防護性能	1	普通にある・少しある	全ての種類の安全靴、プロスニーカーが適合します。 硬質先芯のない作業靴は不適合です。
		ほとんどない・全くない	全ての種類の安全靴、プロスニーカー、及び硬質先芯のない作業靴も適合します。
	2	普通にある・少しある	U種、H種、S種の安全靴及びA種プロスニーカーが適合します。 L種安全靴、B種プロスニーカー及び硬質先芯のない作業靴は不適合です。
		ほとんどない・全くない	全ての種類の安全靴、プロスニーカー、及び硬質先芯のない作業靴も適合します。
	3	普通にある・少しある	U種安全靴が適合します。 その他の安全靴の種類及びプロスニーカーでは完全に防護できない場合があります。
		ほとんどない・全くない	全ての種類の安全靴、プロスニーカー、及び硬質先芯のない作業靴も適合します。
甲被及び靴底の材質と付加性能	4	普通にある	甲被の材質はゴム製又は高分子 ^(注) ・プラスチック製が適合します。 靴底の材質はゴム製又は高分子 ^(注) ・プラスチック製を推奨します。 付加性能では、耐滑性と漏れ防止性を推奨します。
		少しある	甲被の材質はゴム製又は高分子 ^(注) ・プラスチック製が適合します。 プロスニーカーではメッシュ使用の甲被は推奨しません。 靴底の材質はゴム製又は高分子 ^(注) ・プラスチック製を推奨します。 水を使用する頻度、量が少なければ革製甲被や発泡ポリウレタン靴底も使用できます。 付加性能では、耐滑性と漏れ防止性又は耐水性を推奨します。
		ほとんどない・全くない	甲被の材質のしぼりはありません。 特に漏れ防止性又は耐水性は必要ありません。但し、たまたま水を使用する作業に従事する場合は、靴を履き替える等の対策が望ましい。
	5	普通にある・少しある	甲被の材質はゴム製又は高分子・プラスチック製が適合します。 付加性能では、耐滑性と漏れ防止性及び甲被と表底の耐燃料油性を推奨します。
		ほとんどない・全くない	甲被の材質のしぼりはありません。 特に甲被と表底の耐燃料油性は必要ありません。但し、たまたま油を使用する作業に従事する場合は、靴を履き替える等の対策が望ましい。
	耐踏抜き	6	普通にある・少しある
ほとんどない・全くない			特に耐踏抜き性は必要ありません。但し、たまたま鋭利な物体が床に散在しているような作業場にゆく場合は、踏抜き防止中敷などを挿入して作業することが望ましい。

踵の衝撃吸収	7	普通にある・少しある	踵の衝撃吸収性が必要です。一般的に靴底が柔らかい素材の方が踵の衝撃吸収性は良い傾向があります。
		ほとんどない・全くない	特に衝撃吸収性は必要ありません。但し、たまたま長時間の立ち作業や歩行作業を行う場合は、靴を履き替える等の対策が望ましい。
足甲の防護性	8	普通にある・少しある	足甲の防護性が必要です。足甲プロテクタを装着した安全靴を選定して下さい。
		ほとんどない・全くない	特に足甲の防護は必要ありません。但し、たまたま足甲部の防護が必要な作業を行う場合には、靴を履き替える等の対策が望ましい。
耐滑性	9	普通にある・少しある	耐滑性が必要です。JIS 安全靴・作業靴の場合、耐滑性の程度によって2区分があります。プロスニーカーは1区分のみです。
		ほとんどない・全くない	特に耐滑性は必要ありません。但し、たまたま滑りやすい床の上で作業する場合は、靴を履き替える等の対策が望ましい。
感電防止性	10	普通にある・少しある	感電防止性が必要です。電圧が200V程度の活線と靴底の接触では静電気帯電防止靴で感電を防止可能ですが、300Vを超える場合は、絶縁用保護具(絶縁ゴム長靴)の着用が必要です。先芯は樹脂製を推奨します。プロスニーカーは不適合です。
		ほとんどない・全くない	特に感電防止性は必要ありません。但し、たまたま200Vを超える活線に接触する恐れのある作業を行う場合は、静電気帯電防止靴又は絶縁防護靴を着用して下さい。
耐高温熱伝導性	11	普通にある・少しある	耐高温熱伝導性が必要です。炉前作業などに必要な性能です。JIS 安全靴・作業靴の場合、耐熱温度によって2区分があります。プロスニーカーは不適合です。
		ほとんどない・全くない	特に耐高温熱伝導性は必要ありません。但し、たまたま高温の床の上で作業を行う場合は、耐高温熱伝導性を有する靴に履き替えて下さい。
耐低温熱伝導性	12	普通にある・少しある	耐低温熱伝導性が必要です。冷凍庫・冷蔵庫作業などに必要な性能です。JIS 安全靴・作業靴の場合、耐熱温度によって2区分があります。プロスニーカーは不適合です。
		ほとんどない・全くない	特に耐低温熱伝導性は必要ありません。但し、たまたま低温の床の上で作業を行う場合は、耐低温熱伝導性を有する靴に履き替えて下さい。
耐高熱接触性	13	普通にある・少しある	耐高熱接触性が必要です。靴底はゴム底を推奨します。発泡ポリウレタン底やPVC底では高温で熱変形を起こす場合があります。プロスニーカーは不適合です。
		ほとんどない・全くない	特に耐高熱接触性は必要ありません。但し、たまたま高熱と接触するような作業を行う場合は、耐高熱接触性を有する靴に履き替えて下さい。
耐切創性	14	普通にある・少しある	耐切創性が必要です。林業や災害現場の処理などには必要な性能です。プロスニーカーは不適合です。
		ほとんどない・全くない	特に耐切創性は必要ありません。但し、たまたま耐切創性がひつような作業を行う場合は、耐切創性を有する靴に履き替えて下さい。

静電気帯電防止性	15	普通にある・少しある	<p>静電気帯電防止性が必要です。JIS 安全靴・作業靴の場合、特に電気抵抗値の範囲が狭いものに特種静電靴がありますが、一般用途では一般静電靴で対応できます。</p> <p>特に帯電しやすい作業環境で、防爆が必要な場合は導電靴が必要です。一部のコンビナートなどでは静電靴の着用がないと敷地内に入れないところがあります。</p> <p>プロスニーカーの静電気帯電防止性は寒冷地では電気抵抗値が上限値を超える場合があるので、使用環境に留意下さい。</p>
		ほとんどない・全くない	<p>特に静電気帯電防止性は必要ありません。但し、たまたま半導体・電子素子を取り扱う作業、ほこりの付着を嫌う作業や静電気による爆発の危険があるような作業に従事する場合は、静電気帯電防止靴又は導電靴に履き替えて下さい。</p>

(注) 高分子製とは、ウレタン、PVC、その他熱可塑性樹脂などの分子量の大きい物質の総称を言う。

③ 靴の形状の選び方について

靴の形状	シルエット	長所	短所
短靴		<p>軽く作業しやすい。</p> <p>着脱がしやすい。</p>	<p>靴が足全体を覆っていないので、鋭利に物体による切創、埃の進入による足の汚れがあり。</p>
編上げ靴		<p>踝、アキレス腱まで保護する。</p>	<p>屈曲時に履き口部が踝や足首に当たる場合がある。</p>
長編上げ靴		<p>踝、アキレス腱、脛、足首まで保護する。</p> <p>紐をしっかり締めれば、足にフィットする。</p>	<p>紐式のものでは着用の都度紐を結ぶ必要があり、着脱がしにくい。</p>
半長靴		<p>踝、アキレス腱、脛、足首まで保護する。</p> <p>埃や水が進入しにくい。</p>	<p>長編上げ靴と丈は同等だが、構造的にフィット性がやや劣る。</p>
長靴		<p>踝、アキレス腱、脛、足首、ふくらはぎまで保護する。</p> <p>埃や水が進入しにくい。</p>	<p>最も丈が長くので、重量がやや重い。</p> <p>ゴム製、高分子製のものは長時間使用では蒸れやすい。</p>